

臨時（平成19年度）IODP 部会・執行部会 議事録

日時：2007年4月8日（日） PM12:00~13:30

場所：東京大学海洋研究所 A棟 1F 会議室

出席者（敬称略）

執行部：鈴木徳行（北海道大学）、阿波根直一（北海道大学）、荒井晃作（産業技術総合研究所）、石橋純一郎（九州大学）、海野 進（静岡大学）、北里 洋（海洋研究開発機構）、白井正明（東京大学海洋研究所）、山田泰広（京都大学）、山本啓之（海洋研究開発機構）、新執行部：川幡穂高（東京大学）、小平秀一（海洋研究開発機構）、坂本竜彦（海洋研究開発機構）、山崎俊嗣（産業技術総合研究所）

オブザーバー：

文部科学省海洋地球課：宿利一弥、戸谷洋子、杉山真人
海洋研究開発機構国際課：花田晶公、笹山岳大
海洋研究開発機構 CDEX：木戸ゆかり
事務局：山田 泰、加賀谷一茶、梅津慶太、増田由衣

欠席者（敬称略）

執行部：佐藤時幸（秋田大学）、佐柳敬造（東海大学）

議事次第（案）

- (1) 2007年度J-DESC会員総会について（鈴木部会長、事務局）
 - ・司会進行について
 - ・全体の議題確認（役員交代、会則変更、予算（案））
 - ・IODP 部会としての議題（H18 年度報告・H19 年度活動計画等）検討
- (2) IODP・SAS委員会 / パネル委員ローテーションについて（事務局）
- (3) Exp.313 New Jersey Offshore Rotation（案）について（部会長補佐）
- (4) IODP Management Forum 報告（部会長）
- (5) IODP部会執行部新体制について（部会長）
- (6) IODP成果報告会準備状況について
- (7) IODP国内研究推進に関する要望ドラフト案について（事務局）
- (8) 新執行部への申し送り課題の確認（部会長、事務局）
 - ・会員提案型活動経費選考委員会の選任
 - ・J-DESCスクール等
- (9) その他
 - ・J-DESC HP更新業務について（事務局）
 - ・次回執行部部会日程（事務局）

配布資料

資料1-1 2006 年度会員総会資料

資料1-2 IODP・SAS委員会 / パネル委員ローテーション表SASEC の新設

資料1-3 Exp.313 New Jersey Offshore Rotation (案)

資料1-4 IODP国内研究推進に関する要望書 (案)

資料 1-5 J-DESC HP について

議事録（案）

(1) 2007 年度 J-DESC 会員総会について

- ・ 2007 年度 J-DESC 会員総会の進行・議題について事務局から説明がなされた。
- ・ 文部科学省海洋地球課に戸谷氏の着任、JAMSTEC 国際課に花田課長の就任が、MEXT 宿利氏、事務局からそれぞれ報告された。

(2) IODP・SAS 委員会 / パネルローテーションについて

2007/3/19 開催の執行部会以降での国際委員パネルローテーションの変更点について事務局から以下のような報告があった。

- ・ 2007 年 6 月に異 SASEC 委員が退任予定で、後任として 2008 年 1 月から川幡氏（東大海洋研）が就任予定（異委員は 6 月の SASEC 会議後から BoG 委員）。
- ・ 2007 年 6 月から渡辺氏が ESEP 委員に再任予定。
- ・ 2007 年 1 月にて ESEP 委員退任の古谷氏の後任として、2007 年 6 月から長久保（JDC）氏が就任予定。

(3) Exp. 313 New Jersey Offshore Rotation（案）について

標記の件について阿波根部会長補佐より説明がなされた。

- ・ 日本からは、Sedimentologist として東京大学の大村氏、Geochemist として東京大学の林氏、Petrophysist として産総研の七山氏が乗船予定。
- ・ 掘削開始の予定は当初からは遅れており、6 月から 8 月（遅くとも 9 月始め）の間で調整され、ESO から J-DESC に連絡が来る。

(4) IODP Management Forum 報告

標記の件について、鈴木部会長より報告がなされた。

- ・ 2013 年からの 10 年を見据えて中・長期的な問題点について議論の予定だったが、SODV の改修/運行経費について厳しくなってきたとのニュースが入ったため、ちきゅうを含め短期的な問題（大きく分けて 3 つの点）について議論を行った。
 1. 航海の優先度をどのようにつけるか。ISP を見直すためのコミュニティーが立ち上がりつつあることを受け、新しい ISP に基づいて Expedition を Science base で厳選していくことを確認した。
 2. IODP 全体の予算を効率的に削減するための改善策について。一番効率的なのは Expedition を削ることだが、これについては日常的・本質的な改革が必要。
 3. 外部資金導入の検討。Company や IODP メンバー外の国（オーストラリアやインドなど）の要望にも対応することを検討。
- ・ 次回（2008 年 3 月頃）はフランスで開催。

(5) IODP 部会執行部新体制について

標記の件について、鈴木部会長・川幡新部会長から紹介・説明がなされた。

- ・ 新執行部では主に 3 つの事柄について確立を目指す（川幡新部会長）。
 1. 10 年以上 J-DESC を持続するため、運営をシステム化し、1 年半後にルーチン化（川幡新部

会長は2期目はやらない)。

2. 会員機関への利益の還元(小規模なところから)。
 3. J-DESCの予算をより使いやすくする。
- ・ 執行部メンバーと国際パネル委員を対応させた形で人選を行った。
 - ・ 専門部会については、効果的な国際対応ができるよう、国際パネル委員を務める方に専門部会長を兼務してもらいたい。
 - ・ 産総研から2名、JAMSTECから2名選出してもらえよう要請した。

(6) IODP 成果報告会準備状況

標記の件・連合大会のセッションについて、石橋委員より説明がなされた。

- ・ Exp. 307、308、310、311 についての報告会を5月25日に行う。

(7) IODP 掘削プロポーザル支援課題に関する要望 Draft 案について

標記の件について事務局から説明がなされた。

- ・ J-DESCとしてはプロポーザル支援課題のCDP・ちきゅうへの特化撤廃を要望する。
- ・ 執行部としては前回承認したため、内容については問題ない。
- ・ 4月16日までにメールにて意見を募集。
- ・ 小泉委員会に提出→審議では時間がかかりすぎるのではとのコメント(鈴木部会長)に、メールで小泉委員長とやり取りをすることで早急に対応する旨(事務局)説明がなされた。

(8) IODP 新執行部会への申し送り課題の確認

標記の件について、阿波根部会長補佐より説明がなされた。

- ・ 長期課題に含まれている研究支援体制の確立(シード研究、ポストクルーズ研究支援等)は1年以内に目指すべきであると鈴木部会長が指摘。現時点ではJAMSTECとAESTOの間で契約変更をしなければならないと川幡新部会長・事務局より説明がなされた。
- ・ 会員提案型活動経費の使い道について、中期的な課題としてより使い勝手のよいものとしていただきたい(北里委員)。

(9) その他

以下の件について、事務局より説明がなされた。

- ・ J-DESC HPのj-desc.orgドメインを昨年取得した。
- ・ ニュースレターを今年度2回刊行予定のため、広報活動費は昨年度より増加する予定。
- ・ HP更新作業を委託する場合、約25万円かかるが、委託によらない場合、削減することができる。これについては次回の執行部会への申し送りとなった。
- ・ 次回の執行部会は4/17か4/20で調整中。